

## 2025 年度 調査研究の概要

調査研究テーマ	調査研究の概要	委託先／共同研究先
インパクト投資に関する調査研究	<p>GPIF は、市場平均収益率を確保しながら、被保険者の利益のために長期的な収益確保を図る観点から、投資先企業の持続的な成長可能性等を評価する際の非財務的要素の一つとして、投資先企業の事業内容がもたらす社会・環境的効果(インパクト)を考慮して投資を行うことについて検討を行っています。まずはインパクトを考慮した投資の実態把握のために、インパクト投資やそれに関連する概念等、インパクト投資等に関する市場や業界団体の動向、インパクト投資等に関する諸外国の政策・規制等の動向、諸外国におけるインパクトファンドの事例、諸外国の年金基金におけるインパクト投資等への取組事例について文献調査や年金基金へのインタビュー調査を実施しました。GPIF は、本調査研究結果を踏まえつつ、サステナビリティ投資方針に沿って、GPIF が行うインパクトを考慮した投資の意義や定義、また具体的な取組内容・進め方について検討を行います。</p>	委託先:ニッセイアセットマネジメント株式会社
政策ベンチマークに関する調査研究	<p>GPIF は、現行の基本ポートフォリオ策定にあたり、伝統資産(国内債券、国内株式、外国債券、外国株式)の政策ベンチマークを設定しました(注)。政策ベンチマークは市場を反映した構成であること、投資可能な有価証券により構成されていること、その指標の詳細が開示されていること等を勘案して設定しましたが、伝統資産についてはこのほかにも政策ベンチマークの候補となり得る様々な指数が多数存在しています。また、オルタナティブ資産(インフラストラクチャー、プライベート・エクイティ、不動産)については現行の基本ポートフォリオ上は独立した資産としては位置づけず、政策ベンチマークを設定していません。このような背景を踏まえ、伝統資産とオルタナティブ資産について、幅広く指数(ベンチマーク)に関する情報提供依頼を行い、提供された多数の情報を踏まえ、大規模なアセットオーナー等が設定しているベンチマーク、ベンチマークの設定において考慮すべき事項、大規模なアセットオーナー等におけるベンチマーク変更の事例、ベンチマークの変更に係る取引コスト等を整理しました。さらに、2025 年度は外国債券について国債と社債のリターンと比較等に関する学術論文の調査を行い、基礎的な知見を深めました。今後はその他の資産についても更なる調査を実施します。</p> <p>(注)GPIF では、基本ポートフォリオ策定に用いるベンチマークを政策ベンチマークと呼んでいます。</p>	—